



#### KNIT#6 目次

寺集   <b>こどもの空間</b> 3
<ul><li>まちづくりはひとづくりから5</li></ul>
● こども 学校・地域との関わり7
● 学生と町衆と子ども達9
● KNITの学校······11
● 空間環境と人間 13
● 幼稚園設計と幼い空間の記憶 15
● こどものための公共空間づくり・まちづくり 17
● 原っぱ…戦後間もない頃の風景 19
● 子どもの心象風景とその変化を考える 21
●「一房の葡萄」の先生と僕23
<ul><li>■ こどものDEN25</li></ul>
● 環境と情操教育27
成北地域会の活動紹介
扁集後記30



### こどもの空間

#### 地域で育つこども

こどもは地域の中で育っていきます。わた したちもかつてそうであったように、地域の風 景の中で、さまざまなことを体験し学んでいき ます。それは実際にはどのようなものなのでし ょうか。その体験の中で大きなものは空間体験 だと思います。空間体験の原点である地域の空 間はとても大事なものと考えます。かつてある 建築家が朝は西側から明るくなると、こどもの ときに思っていたと講演で語ったことが印象に 残っています(渓谷の朝なので東は暗く西が明 るい)。そしてその建築家はいつも渓谷のよう な空間を設計しています。 一例ですが空間体験 の原点である地域の空間はかくも影響を及ぼし ていくとても大事なものだと考えます。さて今 のこどもは地域をどのように記憶していくので しょうか。その記憶は、その人の地域観(帰属 性、親和性 etc.) を形成していく大事な要素の 一つになっていくものと考えられます。

#### まなびとあそび

さてこどもがまなぶところはいまどうなっているのでしょうか。こども園、幼稚園、小

学校などは、かつてのものと大きく変化してきて、わたしたちの地域 KNIT においても新たな学び舎も誕生しています。まなぶのは学校だけに限りません。こどもはあそびの中で多くを学んでいきますが、その遊び場は今どのようになっているでしょうか。かつては都会でも路地、空き地、道路などがこどもの格好の遊び場でした。今のこどもはどこで遊んでいるのでしょうか。またこどもたちがまなびでもあそびでも最もいきいきするのはどんな時なのでしょう。

#### こどもにつなげるもの

地域の風景、営み、文化をこどもたちにどうつなげていくか、行政や地域のおとなはどう考えているのでしょうか。それを考えるためには、こどもが地域・空間・環境からなにを学んでいくのかを知ることが重要です。そのことについて、いまわたしたちがわかることを考えていきたいと思います。おとなもこどもも楽しいことや学べることが共有できれば良いことであり、世代から世代へ伝えることやこどもにつなげることを見つけていきたいと考えます。

// 南 知之

特集|こどもの空間

### まちづくりはひとづくりから - 空間ワークショップ | 校庭に 『まち』をつくろう-

#### はじめに

学校教育の中で「建築・住環境」が取り上げられることはほとんどなく、そのことが自分たちの暮らしている「まち」や「いえ」に対して関心を持たない一因となっているように思います。子どもたちの教育を学校だけに任せておくのではなく、地域社会がサポートすることで、住み続けられる街を考えていく上で、より効果的になるのではないかと思います。そんな素朴な想いから始まった「空間ワークショップ」という活動は15年の歴史があり、参加した小学生が1万人を超え、地域に密着した建築家の活動として認知され、昨年度(ようやく)日本建築家

協会 [JIA] 関東甲信越支部公認事業として認められました。

#### 空間ワークショップとは

2 種類の長さ (1800mm と 900mm) の材木とゴムバンドだけを使い、6~10 人の子どもたちがグループで協働してアイデアを出し、自分たちが入ることができる「いえ」をつくり、みんなで校庭に「まち」をつくろう

というものです。

この活動は、2003年に日本建築家協会 [JIA] 関東甲信越支部中野地域会で考案され、2003年10月に中野まつりの一つのイ ベント「公園にまちをつくろう!」として初めて実施されました。その後、2004年8月に開催された東京都図画工作研究会城西大会で発表した際に、武蔵野市立の小学校の先生方がこの活動に関心を持ち、授業としての空間ワークショップの可能性について相談を受け、あらためて授業としての企画を先生方と協議し、2005年11月から2006年3月にかけて武蔵野市の三つの小学校で実施された空間ワークショップから「授業としての空間ワークショップ」が始まり、その後それぞれの担当の先生方との討議などを踏まえて現在の方式に収斂してきました。

#### 空間ワークショップの愉しさ

自分の背丈よりも大きいものを作るという 経験は、少なくとも小学校の授業で体験す ることはないでしょうから、ほとんどの子ど もたちが初めての経験ということになります。 それも2種類の材木とゴムバンドだけで・・・ というわけですから、始まりはみんな半信半 疑です。それが時間が経つにつれてみんな 眼の色が変わってきます。休み時間も忘れて 90 分間作り続け、それぞれ個性的な「いえ」が建ち並び、あっという間に校庭に楽しそうな「まち」が出現するとともに、満足そうな子どもたちの笑顔が輝きます。 毎年 10~20 校でこの空間ワークショップを実施して、すでに 15 年目に入っていますので、参加した小学生は 10,000 人を優に超え、少なくとも 1,000 軒以上の「いえ」が建ち並んだことになります。この数にもびっくりしますが、それよりもっと驚くことは、同じものができないということです。

子どもたちの 想像力/創造力 恐るべし!

#### 空間ワークショップの今後

この空間ワークショップは、建築の専門家としての建築家がその知識と経験を活かして、直接子どもたちに接し、楽しみながら一緒に学んでいくことが特徴で、小学校の先生方からもそのことが評価されています。毎

年続けて実施している中で、そのことに加えて、協力することの大切さ、協力するための コミュニケーションの取り方も同時に学べる ことに気がつきました。

私事ですが僕の父は長年小学校の体育の 教師をやっていて、後年、大学で体育科の 初等科教育法を教えていました。そんな父 の著作の中でちょっと気になった文章があり ました。

子供が体育の授業に何を望んでいるのか、私がこれまで作文を通して知り得た点から言えば、次の4点に集約できる

- 1. 精一杯運動させてくれた授業
- 2. ワザや力を伸ばしてくれた授業
- 3. 友人と仲良く学習させてくれた授業
- 4. 何かを新しく発見させてくれた授業 (高田典衛「授業としての体育」1972、明治図書)

僕がこれまで空間ワークショップをやりながら感じていたことは、これら「動く楽しさ」「集う楽しさ」「わかる楽しさ」「伸びる楽しさ」の4つの楽しさに集約されます。このよ

うな活動は、現在ではその活動範囲を多摩 地区だけでなくその周辺地域に広げて実施 しています。地域とともに行う建築・住環境 教育は、そこに住むひとを取り巻くいろいろ な事象に敏感に反応できる人を育てていくこ とが必要です。いろいろな視点で街を見る ための基礎知識としての建築・住環境教育 は空間ワークショップを通して始まり、15年 間の継続的な活動により、徐々にその成果 を挙げつつあると感じています。

まちづくりは、ひとづくりから・・・

❷高田 典夫 | 空間ワークショップフォーラム



## こども 学校・地域との関わり

#### こどもを育む場

建築的なこどもの教育空間のあり方論は 他の方に譲り、学校と地域との関わり方な どに視点を広げて考えてみたい。

近年の学校等の教育空間は、学校侵入犯 による各種殺傷事件等、犯罪者の侵入によ る問題から地域開放的な空間から閉鎖的な 管理空間になっている。やむを得ない背景 があるものの、地域との関わりの中でこども が育つことへの教育的な意義やコミュニティ 醸成の観点から「学校=こどもを育む場」 の地域でのあり方を少し考察してみたい。

#### 学校と地域との関わり

「学校」の実態としては、教員も児童生徒 もその保護者も入れ替わりがあり、常に新 しい血が入ってくる、ある意味で年を取らな い劣化しない体制(組織)である。

また、学校を拠点とした諸活動には、こ どもを育てるすべての保護者にとって参画 の機会があり、こどもが卒業後した後も、

引き続き学校を拠点とした地域づくりに参 加することで、継続的に地域を支える厚い OB 人脈を蓄積していくことができる。

さらに、こどものうちに地域と関わる機会 を持つことで、地域に対する誇りや愛着が 生まれる可能性が高いと思われる。

#### 学校の持つ地域での役割

#### (単一機能から複合的機能へ)

「学校」は単なる教育の場ではなく、特 に近年では災害時には避難場所となる重要 な施設である。日頃から地域に開放し、拠 点体制を整えておくてとで、有事にも迅速な 対応を取ることができる。

また、少子化の進行等で空き教室の地域 への開放により、地域における牛涯学習や コミュニティ活動の拠点が形成されつつあ る点なども見逃すことができない複合機能 への進化事例と思われる。

#### 学校を活用した地域づくり

学校を地域住民の様々な活動の場とする、 複合的機能の拠点を目指すことで、住民同 志のつながりが強まる。

この効果は、地域での問題・課題を地 域の将来を担う「こども達のため」であれ ばという理由で、地域は結束する可能性が 高い。言わば「こども」が重要なキーワー ドとなり、引いては地域活動を通じて住民 内のコミュニケーションも活発になる。

しかし、学校内に外部の者が出入りする ことに対して学校側はセキュリティ上の課題 を抱えることになる。しかし、こどもと地域 の人々の間において顔と名前が一致する関 係ができあがることで、こどもを見守る大人 が増え、結果として犯罪発生率が低くなり、 安全で安心な子育でしやすいまちとなるの ではないか。

このような地域においては、地域の安心・ 安全のブランド力が高まり、街としての価値 が向上していく。

#### こども達への効果

地域の主役であるこども達への効果とし ては、先述したような地域への愛着が深ま り、積極的な姿勢で行事に取り組むように なる可能性が高い。

地域活動を诵じて、さまざまなこどもた ちに豊かな学びの機会を与えることで、地 域活動全般が、知力、学力の向上にもつな がっていくと考えられる。

#### 効果をあげるためのポイント

先述した通り、学校は、教員もこども達も その保護者も入れ替わりがあるが、教職員 の異動や教育課程の変更に関わらず活動を 継続していくための施策が重要になる。

そのためには、学校側の変化に影響され ずに活動を継続できる体制を地域側が整備 することが鍵となると考える。また、行政や 地域団体等との覚書等により、学校側(教 職員)の負担軽減をはかるなどの工夫が必 要である。

学校側においても、受け入れ側の体制を 整備し、行政などと協働することで、一部の教 職員に負担が集中しない工夫が求められる。

いずれにしても、学校が地域の様々な活

▽小学生による空間ワークショップ



▽小学校改築に関わる卒業生・PTA・地域住民・教職員ワークショップ



動の場とする複合的機能の拠点化すること で、希薄化する地域コミュニティの醸成へと つながることを期待したい。

● 色川 基一

▽中学生による、ガリバーマップを利用した景観ワーショップ





# 学生と町衆と子ども達

1996 年から 2013 年まで滋賀県立大学 教授として彦根に、その後は一住人として 月の半分、彦根の花しょうぶ通りと東京目 白に住んでいる。その間の学生と町衆と子 ども達との活動報告となる。

#### ① ACT+ 防災耐震まちづくりフォーラム

1998年、学生達とACT (Action Connect with Town, 活動はまちと繋がる) を立ち上 げ、若者の居場所と地域の方々との交流の場 を創った。「銀座光路」「銀座画廊」2000年 からの花しょうぶ通りでの勝負市などである。 空きビルの改装から始まり Act Station が できた。1階カフェ、2階工房、隣の元パ チンコ屋は「O za」としてライブやフォーラ ムそして勝負市の交流会場としてオープン



防災・耐震・まちづくりフォーラムの 子どもワークショップ



した。ビル自体をふくめ、すべてリユース、

防災・耐震・まちづくりフォーラムでは、

名古屋大学教授の福和伸夫教授(当時)

が子ども達に「紙ぶるる」を使って耐震化

や筋交いの有効性を実験した。「耐震補強

で家族で命を守ることの大切さを考える機

寺子屋力石は250年前、江戸時代から

の寺子屋である。1997年に町衆によって、

「花しょうぶ館」としてオープンし、まちの

方々が話し手になる「それぞれの彦根物語」

などの講座や「寺子屋」が開かれていた。

2007年に、木造伝統構法の棟梁の指導に

リサイクルの活動の場であった。

会」になってもらう為である。

②寺子屋力石の耐震工事

耐霊補強後





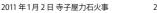
耐震補強後

より民・官・産・学士子ども達で耐震補強 され、安全な寺子屋とカフェが出来た。

#### ③寺子屋力石火事 + 花祭り

2011年1月2日に火事になり、耐震補 強した座敷は残ったが、奥座敷は消失した。 2月15日にchifaさんによる応援ソング「前 へ、前へ」が路上ライブで披露された。 寺子屋力石の火事場では、地元の子ども 達にもこれからの再興に参加してもらう為 に、花まつりとして花を活け、山本ひまり さんの描いた大判絵の前に飾った。花しょ うぶ通りは 2016 年に重要伝統的建造物群 保存地区に選定され、その補助と寄付金 で、寺子屋力石は2018年11月に仮設架 構から本格的に再興した。







2011年2月花まつりの活花



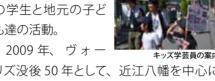
活花を寺子屋力石に飾る

# 「カフェ DIG'S」ヴォーリズの町の模型

#### ④ DIG'S+ キッズ学芸員

DIG'S は、「地域資産を掘り起こそう!」

という滋賀県立大学 の学生と地元の子と も達の活動。



リズ没後50年として、近江八幡を中心に ヴォーリズ遺産を巡るイベントが開催され た。学生達は、朽ちかけた小さな町家を 改修して「カフェ DIG'S」を営み。子ども 達の「キッズ学芸員」がヴォーリズ建築の 特徴を学びヴォーリズの町の模型を作り上 げて展示をし、市内のヴォーリズの建物で は、観光に来た方々を案内した。COP10 での公式エクスカーションでは、琵琶湖の 内湖・西の湖についてプレゼンをした。



COP10へのTシャツづくり



勝負市子ども広場 大判絵の作成

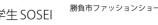
### ⑤ 勝負市 + 子供広場

・子ども広場が開設さ れ、山本ひまりさんの 指導で子ども達が大判 の絵を描いた。「嶋さ こにゃん」と一緒に描 かれた「にゃん大王」



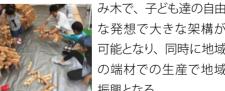
2018年:

・ファッションショー 滋賀県立大学生 SOSE



の企画で「リメイクとスポーツ」をテーマ にメインステージで繰り広げられた。

・クミノは滋賀県立大学 OB の井上恒也さ んが考案の地元の端材で作った組み立て積



勝負市子ども広場クミノ



勝負市子ども広場 純碁カフェ

・純碁カフェは、王メイエン九段(元本因坊、 元王座)が広めている純碁(10分で覚え られる囲碁)を体験できるように開設した。

#### ⑥純基研究会 + 夏休み子供純基・囲基数室

2019年夏、王メイエン九段をお招きし て、彦根市・近江八幡市安十・東京都豊島 区で、純碁・囲碁教室が開催され3歳か ら80代までの方々が集まった。







東京都豊島区





安土、学童



# K N I Tの学校

#### KNITの学校を設計する

この十年余りの間、機会を得てKNIT (北区、練馬区、板橋区、豊島区)の学校 を設計する幸運に恵まれました。

学校建築はこの間、急速に変化してきています。顕著なのは、こども園(保育園と幼稚園の合体)、小中一貫校・連携校(義務教育学校)、さらには中高一貫校の登場によりこれまでのこどもを区分する学びの仕組みが大きく変わってきたことです。

#### 特別教室がワンフロアにある学校

普通教室が日常の学びの場…これがそれ こそいままでの学校の常識でした。特別教 室はその授業の時だけ行く場でしたが、近年特別教室の周りに教科にちなんだ学習メディア、ポスター、授業の成果としての作品などを置いた教科メディアコーナーを設け、いつも教科への関心を持つことのできる設えとするようになりました。

北区立十条富士見中学校では、特別教室がワンフロアにまとまっている学校を計画しました。この構成で考えたことは、1階のワンフロアに特別教室およびメディアセンターを配置し、生徒の日常生活空間でもある普通教室とは異なり、いつも生徒が勉強したり遊びに来たりすることのできる専門的な学びの空間を創りだしたいと考えました。

北区立十条富士見中学校

#### 大きな玄関ホールと屋上の中庭のある学校

ての学校、練馬区立豊玉第二中学校は環状七号線と近隣住宅に囲まれており、グラウンド方向以外には教室を開くことが難しい配置条件でした。そこで校舎中央に大きな吹抜けの玄関ホールを設け、またその上部を中庭とする口の字形校舎配置としました。生徒のラーニングスペースをホール・中庭側に開くレイアウトとし、いつも生徒たちの視線が交錯する楽しい空間をめざしました。玄関の豊二ホールでは、改築の際切らざるをえなかった桜の木を壁・床材(写真参照)として再生させ、旧校舎の思い出をこれからも伝え偲ぶ空間を創出することができました。



練馬区立豊玉第二中学校

#### まちに空間を与え、防災を担う小・中学校

木造住宅密集地区に位置するこの学校では、学校建設に際して周辺環境をいかに良くすることができるかに、まず配慮しました。この学校・豊島区立池袋本町小学校・池袋中学校は、旧池袋第二小学校の敷地と道路向かいの池袋中学校の敷地で構成されます。二つの敷地の間の道路が通学で利用されるものとなるため、遊歩道を造り、ソメイヨシノ発祥の地豊島区にふさわしい桜のプロムナードとして街に潤いのある空間をつくりました。他の校地周辺道路もすべて拡幅し緊急車両の通行を可能とするなど、地域防災に寄与するようにしています。

この学校は小中一貫校ではなく、一体型 小中連携校ですが、小学校、中学校がある 程度独立しながら、メディアセンターなど を共有空間として、多世代の子供たちが交 流できる施設構成としています。大きなお 兄さんお姉さんを見ながら育っていくのは 小さな低学年の子たちにも良いし、中学生 にとっても小さな子たちへの優しさのある 配慮を育むものとなっているようです。

#### 教科センター型の中学校

板橋区は中学校に対して従来の普通教室 型ではなく教科センター方式もしくは教科 教室型運営方式を採用しています。教科セ ンター方式とは、国社数理英 などの授業専用 の教科教室、多 目的スペース・ 教科教員室・教 材室との連携で

材室との連携で 教科センターを構成する方式です。生徒は ホームベース(以下 HB)と呼ばれる生活 活動拠点(ロッカー、テーブル等配置)に より校内生活を過ごします。

板橋区立上板橋第二中学校は現在設計を 終えて工事中ですが、教科センター周りの学 習空間をこれまで以上に発展させ、生徒が

積極的に学びに取り組める空間づくりをしています。また教科教室はホームルームとしても利用されるため、HBを隣接させ、学校生活が快適に過ごせるようにしています。





豊島区立池袋本町小学校・池袋中学校

板橋区立上板橋第二中学校

## 空間環境と人間

ドイツでシュタイナー学校の設計に従事され Anthroposophie を基に さまざまな施設を設計している岩橋亜希菜さんに 異なった視座からのこどもと空間環境について寄稿していただきました。

建築は人の手による内部空間と言う環境です。環境はドイツ語で"Umwelt"、つまり我々を取り巻く世界としてあり、この環境の質を呼吸するように人は感覚体験を通して環境を取り入れ自らを形成し、成長してゆくものだと思います。これを体験と呼んでもよいのかもしれません。

子どもは将来おとなとして世界を構築して ゆく存在で、その様な人間が育つために相 応しい環境を整えるのが現在の大人の役割 であると考えます。ですが単にこどもを守ら れるべきものとして過剰に保護したり、間違 いの無いように整え過ぎれば環境との対話 が出来ず、環境を呼吸して自らの血肉として ゆくことも出来ないでしょう。おとな以上に 賢明である子どもと言う時代存在を、ただ 単に未完成品として取り扱うことは様々な問 題を惹き起こします。過保護とはある意味「子 どもを信用しない」ということの裏返しです から、私たちはまず、子どもを信頼する事 から視点を変えてゆかなくてはなりません。 「学ぶ」と言う言葉にもその意識が見え隠れしていて、もっぱら視覚を中心とした知識の獲得が優先されていますし、これらを包含する「数量として捉えられる物質的な世界」若しくは科学と言う視点で全てを見通せると思い込んで、その視点のみによって子どもの世界をも構築されています。建築による空間環境は人によって作られたものですから、作り手の意識をその質の中に色濃く反映されています。管理=監視と知識の獲得を主眼とした空間は単調な変化に乏しい空間を生み出し、子どもの感覚さえも鈍らせてゆきます。

おとなとこどもの世界のかかわり方は、逆の関係といって良いでしょう。「おとな」と言う時代は、それまでに現実世界に向けた行為を通して蓄積した知識や能力などを用いて環境を整えることを通して、自らの精神的な力を再構築する時代であり、それに対して「子ども」という時代は精神的な力、換言すれば未来に向かう力で、これから生きてゆく物質世界を認識し、自分の才能や課題の認識を

通して、生きる楽しさを知る ための時代です。知識や学

問は過去に向けた視線ですから、そこから導かれた合理性の世界は子どもの世界の外にあるか無意味で退屈なものでしかありません。

#### 子どもの精神的成長を考えた建築

Hans Scharoun は子どもの精神的な成長に眼差しを向けて幾つかの学校の設計をしています。建築により囲まれた校庭は子どもに抱かれたような安心感を与えます。その校庭から低く抑えられた校舎の背後に隣接する教会が校舎とハーモニーを持って見え、自分の生活している世界の位置づけを美しく認識させてくれます。個々の教室は一戸の住宅のように独立してあり、それぞれ小さな庭やテラスを持っていて、そこから出入りすることも



出来ますし、校舎への入口も主玄関のほかにも幾つもあり、ディメンジョンを抑えて、子どもにとって違和感の無いようにしています。 教室の入口には中間領域として前室が設けられていますが、障壁をもつ子どもや環境に馴染む事が難しく落ち着かない子どもの安定をもたらす空間として機能しています。さらに各教室は幾つかの群に構成されていて、人の集まり方も段階的に広げられています。教員が子どもと寄り添う意思を持っていれば、玄関に小窓を持つ事務室ではなく、子どもの世

シュタイナー学校では、各学年の教室を 形状とFarbgestaltungによって精神的な成 長に合わせる試みをしています。1930年以 降建築は色彩も失っていきます。これは主知 主義の意識の表れでもありますが、このプリ ミティブな機能主義は子どもにとっては不自 然な世界でもあります。色彩による空間の造 形によって子どもたちの振る舞いは大きく変 わることを考えると、これをきちんと捉えて

界から隔離されたバックヤードとしています。

いないと子どもの空間は 出来ないとさえ思います。 また自然素材を使うこと が返って子どもたちを圧 迫することもあります。 例 えば大きな材木の梁は圧 迫感がありますし、樹木

の形を残した柱は自然のかたちですが、子どもにとっては自然の亡骸ですから違和感があります。子どもは生命感覚を使って感じ取りますが、おとなは視覚を通して象という知的な概念として認識している差の一例です。

須賀川の認定こども園では、高低さが6m ある蛸壺のような敷地に建てた園舎は見え 隠れする空間、光の入り方、色彩造形などを 使って様々な空間を創っています。見通しの きかない廊下は、管理の視点からすると不正 解のように見えますが、全く問題が起きていませんし、子供たちは空間のよどみとつなが りを自分の中で見出し自ら遊びを創造し自分 にあわせた行動を取るようになっています。



認定こども園 りのひら / 須賀川, 2016

職員室も色彩等によってこどもの空間と質を変えることで、子供たちはそこが自分の入って良い場所ではないと認識し、たとえドアが開いていても勝手に入ることはしません。廊下の中央にある花壇は通路と教室の前庭的空間と区分していますが、ここでも怪我が無く上手にこれを使って遊んでいます。また園庭には規則でお決まりの遊具を設置しなくてはなりませんでしたが、起伏にとんだ園庭が子供たちにとっては、よほど良い遊び相手になっていて、遊具を使う子どもは余り見受けられません。子どものちからを信頼して寄り添うことからしか子どもの空間は見出せないと思います。 参告橋 亜希菜

### 幼稚園設計と幼い空間の記憶

#### 通った幼稚園の間取り

幼稚園や保育所等のこどもの施設の設計 は楽しい。このような施設の設計に取り掛か る際にまず浮かんでくるのが、自分通った 幼稚園の間取りである。現在では建築設計 を生業とすることになったわけであるが、幼 少のころに間取や空間認識をする能力があ ったのだなと思う。自分の通った幼稚園は 大阪市にあり、現在は取り壊されているが 木造の平屋園舎(写真1)であった。その 幼稚園の平面図は今でも描けるほどに明確 に間取りが脳に記憶されている。でも頭の なかに見えてくる画像はコンピューターグラ フィックスのウォークスルーのような画像で、 アイレベルはあくまで幼児の日線の高さであ ることが不思議で、そこへ出てくる先生達は 皆昔のままでありとても懐かしく思われる。

#### 幼稚園設計をしてみて思ったこと

数年前に東京都内で某幼稚園を設計させ ていただく機会があった。その幼稚園は私 立であるが、築年数は前述の私が大阪で通 った幼稚園と同じくらいで、既存建物は耐 震補強が出来ないほどの状況であった。建 替計画に際して最も難しかったのは、建替 期間中の仮設計画であったが、計画途中で 幸運にも北側隣接地の用地を取得すること が出来て計画が一気に進んで行った。計画 は古い園舎を使いながら新設園舎の工事を して、新設園舎完成時に仮使用承認を取り、 園児を新校舎に移し、既存建物を解体する という手順を取った。既存解体中は運動場 が無い状況であったが、園児たちには近く の公園や新設の屋上で運動などをして貰っ



②旧園舎が有った運動場側の外観

た。既存建物が解 体され新学期から 新しい園舎に入っ た時の園児たちの 歓声は今でも忘れ られないものとな った。設計に際し



(1) 大阪の幼稚園の前で (昭和43年ころ)

ては園長先牛や担当の先牛らと、どのような **園舎にするか、どのような部屋が欲しいか、** こどもたちに気に入ってもらえるかなどをじ っくり話し合って、ある程度の設計期間を取 って意見を取り纏めた。そして話し合いのと きに自分の頭に出てくるイメージは自分の通



(3) 星空の間接照明

った幼稚園との比較画像が常に思い浮かん できた。

#### 幼稚園で実現できたこと

この幼稚園の設計で実現できたものを写 直で紹介します。まずは旧園舎があったとて ろは南向きの広い運動場になり、入口壁面 には木製の羽目板を張り園児の目線から木 製の下足棚と同じ色合いに見えるようにした。 (写真2) 1階のホールの天井には四季の 星空をプリントした円形の間接照明を4ヵ所 設けて電気を消して天井を鑑賞できるように した。(写真3) 2階建てであるため階段



⑤ 2 階ホールとかくれが入口アーチ

は床と手摺を木質系の仕上として優しいイメ ージを重視した。(写真 4) 2 階は年中と年 長さんのクラスであるので「かくれが」を作 った。入口アーチ(写真5)と壁面に曲面 を採用し天井も低くして不思議な空間になっ た。(写真6) ここは園児たちに特に人気と のことであった。最後に道路側外観には建 物に愛着を持ってもらう事と地域への環境 配慮の姿勢と示すため壁面緑化を設置した。 (写真7) このようにこども関連施設の設 計は想像力を活用して特に楽しく設計ができ るので、またやってみたいと思う。





⑥ かくれが内部



4 木質仕上げの階段



# こどものための公共空間づくり・まちづくり

#### ソト遊び場の少ないこどもたち

以前、都心ターミナル駅そばの高層住宅 に住む知人が、近く(練馬区西部)の低層 接地住宅に転居して来られた。「生まれた子 が土や草や虫に馴染めない反応を示し心配 なので」という理由であった。その後その 子は近所の子らと路地や公園で元気に遊ぶ 姿をよく見かけた。

最新統計によると、全住まいの中で共同住 宅に住む世帯の割合は全国で46%余り、大 都市圏では軒並み半数を上回り東京都では 7割を超えている。(総務省統計局「住宅土 地統計調査 H30) 都市部では共同住宅の 多くはマンションなどの中高層建物であろう。

大規模の開発等では屋外広場や緑地もつ くられる。学校や幼稚園、保育園の校庭園 庭や、昔からある遊び場の一つ社寺の空地 も残ってはいる。しかし管理やセキュリティ での制約も多く、都会でのこどもたちが日 常利用できる屋外空間や施設は少なく、十 や草や虫に馴染む機会、遊び場も限定され

ている。その対応策として誰もが利用でき る公園やトイレ等の「公共空間・施設」で こどものためのソト遊び要素を充実させるこ とができたらと思う。彼らが安全に安心して ソトの世界に接し楽しめる公共空間づくりは 如何にあるべきだろうか。

#### 南池袋公園の芝生広場とリボンスライダー

南池袋公園では「都市のリビング」という コンセプトの中心「大きな芝生広場」が人 気で、こどもたちがのびのび遊び回る姿は風 暑の一つになっている。もう一つの人気スポ ットに円弧状の斜面スペース「リボンスライ ダー」がある。ここでのこどもたちの行動を 見ていると実に楽しそうで飽きない。スロー



プの高さが尾根伝いに徐々に高くなり小さい 子は自分の限界に合わせてチャレンジする。 思い切って滑り降りた時、得意そうに親御さ んに向かってアピールする姿には幼い達成 感が伝わり微笑ましい。並んで手を繋ぎ滑っ たり逆さまに滑ったりと実に自由だ。囲まれ た曲面形状で着地床がウッドチップなのも安 心感を高める。年代・成育度に応じチャレンジ 心、創造性、自主性等を促す仕掛けといえる。

こどもたちは安全・安心の中でのびのび と遊び、親たちは身近な場所、普段の時間 で、経済的負担や時間的負担が少ない中で 我が子の笑顔や成長を感じられる。こども や子育て世代に優しいユニバーサルデザイ ンと言えるのではないだろうか。



#### こども女性日線のユニバーサルデザイン

近年、ユニバーサルデザインという概念 は認知され、建築物や道路・公園などの公 共空間に広く普及してきた。公共トイレでも 各地で整備が進んでいるが、こども目線は まだ少ないように思われる。「だれでもトイ レ」は公園などでは子育て世代の親やこど もたちの利用が目につくが、他の必要な人 への配慮・マナー不足を指摘する向きもあ る。高齢者、障がい者など必要とされる人 たちの利用にできるだけ影響を及ぼさない ためにも、こども・女性目線のユニバーサ ルデザインとも言えるしつらえの工夫・拡充 が望まれる。

#### トイレ前の絵本ライブラリー

南池袋公園ではリニューアルオープンか らまる4年を迎えるこの春、トイレ棟が新設 された。計画想定以上の来園者・利用者数 に対応したもので、特に女子トイレのブー ス数を大きく増やし男児用小便器併設ブー

スもつくられた。男女面トイレにはベビーベ ッド、こども用の低い洗面台も設置されて いる。女性やこどもにとって優しく安全・安 心・快適なトイレを目指している。

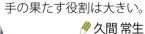
特筆すべきは、こどもたちのための新た な仕掛けとして大きな庇の下に巣箱状の本 棚を設置し、絵本を中心に楽しめる屋外の ライブラリースペースとしたことだ。 こども たちは空の下、十や草の上で自由に絵本に 接する。こどもたち、子育て世代の憩い、 にぎわう新たな風景が期待されている。

本来こどもたちにはものごとを自由に発

想し、それを達成するために色々試みる

#### こどもの環境への順応力を生かす

潜在力が備わっていると思う。彼らはよく環 境へ順応し、どんなところでも遊ぶ空間にし 遊ぶ工夫をする。遊びと学びが一体である こどもにとって自由な遊び場になりそうな空 間は宝物である。その遊びや学びの中で、 自己を考えるとともに他との違いを認識しコ ミュニケーションの力も養われていくのだと 思う。そこで培われるこどもたちのチャレン ジ心、創造性、自主性、協調性等は、人生 の先輩たちが長年築いてきた知見とともに、 これからの持続可能な社会を育む原動力に なると思う。ソフト・ハードを通じてこども のための公共空間づくりは大切でその担い





### - 原っぱ…戦後間もない頃の風景

今となっては説明するのも難しくなってしまったあの頃の原風景 "原っぱ"。子供にとっては遊び駆け回れる田園の野原のようなものだ。でも自然とは異なる点があった。

#### 実は焦土に草牛して

かつてそこにあった住まいのコンクート 基礎が草原に隠されていた・・敗戦の風景、 米軍の爆撃で焼けつくされ、この国の都市 や街から戦前の生活が失われた。

その原っぱに隠された住宅の基礎は、子 供にとっては恰好な遊具だ。幅の狭い基礎 の上で追いかけっこをし、落ちたら負け。



"原っぱ"はコスモス畑 右が当時の筆者

独立基礎に飛び乗る、そこは鬼が来られない安全地帯。周りに赤錆びた鉄筋やガラクタがあったにもかかわらず、その日を生きるのに忙しい親たちは一切干渉しなかった。日のくれるまで遊び回ったあの頃、子ども達にとって間違いなく自由で刺激的な日々だった。

#### 游び・小屋づくり

人の育つ過程はもしかしたら原始の祖先が歩んだ道のりをたどることなのかもしれない。小屋づくりの最初は竪穴住居だった。地面に穴を堀り角材や竹竿を立てかけて草を載せ屋根にする。何故か材料はいくらでも転がっていた。木の上に板を敷いて小屋作りを試みたこともあった。これは完成を見ず、猿の領域と諦めた。

その後様々な小屋づくりに励み、最後は 小さいが本格的な"家"らしきものにまで発 展した。記憶の中では理想の建物、屋根が あり床もある。窓も入口の扉もあった。壁に 一泊いくらとまで書き込んだ。得意だったがこれがいけなかった。戦後の住まい不足で居住権は絶対視され、一方街では浮浪者をいくらでも見かけた。彼らが住み着くことを恐れた両親の命令でその小屋は即日みんなで引き倒した・・悲しかった。

#### 苦役・草むしり

辛かったのは母親の頑とした命令で無限に広がる草むしりをさせられたことだ。社会が崩れかつての文化的な営みが失われると、自然はその領土を復活させようと猛威を振るう。温暖なこの国では雑草の力は凄まじい。焼け跡は草で覆われ、原っぱに変わる。もとの文化的生活圏を取り戻すには、その雑草と戦わなければならない。原っぱと親しむ野蛮人のような子供と違って、両親世代は、過去の生活レベルの復活を目指す文化人だ。雑草との戦いに動員され、草をむしる作業は、芝の広がる庭となったずっとあとまで続いた。今や雑草は遠慮がちにしか生え

記憶の原っぱ 焼け跡にお屋敷の暖炉の煙突がそびえていた

ていない。遊びたい一心の子供にはもちろん最大の苦役だが、今思えば素晴らしいしつけだった。いかなる仕事もあの辛さに比べれば楽なものだ。

#### 街の復興、家の変化

戦後の復興期、限られた資源を分け合う ため、新築住宅は15坪に制限された。焼 け出されて移り住んだ今の目白の住まいも そんなものだった。もちろんそれでは生活 できない。井戸のたたきに風呂が据えられ、 穴だらけのトタン屋根がかけられた。ほぼ掘 つ建て小屋の様相だ。でも風呂に入るとそ の穴から星空が透けて見えて楽しかった。 その後は毎年のように増築改築が続いた。両親にとっては、まともな生活空間を取り戻す一心不乱の努力の日々だったのだろう。子供の私にとっては、大工さんとの楽しい遊びと学びの場だった。設計士さんに教わり、方眼紙にプランを描くことを学んだ。こちらは得意満面でいろいろ提案を続け(じゃまをし)、彼にとっては、小うるさい施主が増えた思いだっただろう。建築に関して初歩的な知識を学ぶこ

#### なにもないから自由で創造的

とができたと今は思い出す。

原っぱでの小屋づくり、戦後の復興期の

家の増改築から文化住宅へ、そして高密化 に対応して今日の集合住宅へ、目まぐるしく 変わってきた私達の街にあわせ、私のまわり の生活空間も同様に変化を遂げてきた。そ の後建築を学び、今の私がある。

あの時代の遊び場"原っぱ"を今日手に入れることはできない。何もなくともどこまでも自由で創造性に満ちた遊びの空間は、復興とともに消え去り、高密化の中で痕跡すらなくなった。今日あの原っぱに代わるものはなんだろうか。

近くの公園の保全林を巡る回遊路を幼児たちが歓声を上げて走り回っている。遊具は

なにもないが、彼らにとってこ

の上なく自由で開放感に満ちているようにみえる。 こうした空間で友達と遊び何かを作る・・そんなことが思いつきりできたらきっと幸せだろう。遊びの中から創造が生まれ

る瞬間だ。

●柴田 知彦

# 子どもの心象風景とその変化を考える

「あなたの心象風景を教えてください」というのが、私の学生の時の研究テーマだった。大学には地方出身の学生が多く、子どもの頃に体験した風景の違いに興味を持ったことが発端だった。友人にお茶を出しながら子どものころ住んだまちの話を聞く、というのんびりした手法をとりながらデータを集めた。風景を切り口に、様々な子ども時代の話を聞かせていただいた。今思うと、なんとも楽しい時間を過ごさせていただいた。

学生の時には、心象風景というと、人生全体に占める割合の多い子ども時代の風景



住宅団地風景

が多かった。当時学生だった人たちは今や アラフィフ。仕事や家族の都合で色々な所 に住んできたかもしれない。どこかに安住 の地を見つけたかもしれない。その過程で、 子どもの頃に見た心に残る風景は、どんな 意味を持っていたのだろうか。

#### 心に残る風景はいつでも、どこでも、 何歳でも

海外旅行で美しい景観を目にしたり、多くの場所に移り住んだり、といった体験によって、アルバムのページが(もしくはクラウドのファイルが)増えるように、心に残る

風景も増えてくるだろう。若者の心象風景が子ども時代の体験やくらしにつながっていたように、青年、中年と経るにつれて、その人の中にある風景も増えていく。目にした風景の中から選び取り、心に残している風景は、そこで何をしていたのか、誰といたのか、どんなことがあったのかといった体験に結び付き、私たちを作るパーツになっているのではないだろうか。子ども時代の心象風景が何か特別な意味を持つというわけではなく、体験に結び付いた風景が増えていくことが、意味のあることなのではないだろうか。何歳になっても。



海岸の風景

#### 風景がなくなってもイメージは永遠に

一方で、風景自体が変化して、二度と見 ることができなくなることもあるだろう。自 然的風景を代表するような海岸の景色でさ え、国立公園などでない限り、今と昔では 様変わりしている。子どもたちがたむろして いたような身近な海辺は、公園ができたり、 商業施設が並ぶようになったりしている。だ が、風景がなくなったり、変わったりしたと ころで、拠り所がなくなってしまうわけでは ない。心象風景として心に残っている海辺 のイメージは、そこで過ごした時間や共有 されたものにつながっているのだからこそ、 変化した景色を見ることで、変化する前の 景色や時間を思い出すのではないだろう か。そうであれば、心象風景として心に残っ たイメージは、変わらずに私たちの中にあ るものと言えるだろう。

#### 「だって好きなんだもの」は変わらない

また一例ではあるが、学生時の心象風景

として、秋葉原の電気街のピカピカ した街並みを描いた友人がおり、現 在、札幌市のすすきの近くに住んで いる。勝手な想像だが、都心である こと、非日常に近い賑わいがあるこ と、訪れる人が多くワクワクした感じ などが、彼が子ども時代に見た心象 風景とつながっているような気がし てならない。秋葉原は彼の思い出の 電器の街とは随分変わったと思うが、 ある意味、時代や場所が変わっても、 人は変わらないと思わせてくれる人 である。

# 子ども達に見せたい風景は? 子ども達が見つめる風景は?

そして翻ってみて、今の子ども達はどんな 風景を重ねているのだろうか。一極集中が 進む東京では23区の中でも都心居住志向が 高まり、マンション居住が増えているが、こ れは一昔前の団地の風景とは明らかに違う。



秋葉原

# - 「一房の葡萄」の先生と僕

#### 絵を描くことが好きな僕

小学校の卒業文集の最後のページに担任の H 先生が寄せてくれた文章は、先生が大学を出られて初めて赴任した学校で受け持った僕たちへの愛情あふれる言葉に満ちたものでした。それは、初めて教室に入った時のこと、運動会、遠足など、先生の暖かな眼差しを感じる文章でした。

また、先生が最初に読んでくれた本は、有 島武郎の「一房の葡萄」で、先生はこの本 が好きで子供の頃から何度も読み返してい たとのこと、そして、そこに出てくる若い 女の先生が大好きで、憧れでもあったとい うことがその文集には書かれています。

\* \* \*

#### (「一房の葡萄」有島武郎から)

物語では、主人公の絵を描くことが好き な僕は小さな過ちを犯してしまいます。ジムという友人の絵の具を盗み、大好きな先生に告げられてしまいます。先生は僕を責めることはなく、明日は必ず学校に来ると いうことだけを約束し、先生の部屋の窓から手を伸ばして葡萄をひと房もぎ、僕の鞄に入れてくれたのでした。翌朝、重い足取りで向かった学校で僕を迎えてくれたのはジムでした。ジムに手を引かれて先生の部屋に向かいます。ジムも先生と約束を交わしていたようで、先生は僕もジムも、約束を守ってくれたことに感謝を伝え、再び部屋の窓から手を伸ばして葡萄をもぎ、二人に分け与えるのでした。

#### 先生のやさしい顔

僕にすれば、先生に嫌われてしまうこと、 友達からも悪口を言われてしまうことが嫌 でしたが、翌日登校しようと思ったのは、 前日の先生の言葉であり、先生のやさしい 顔を見たいとの一心からでた。

\* \* \*

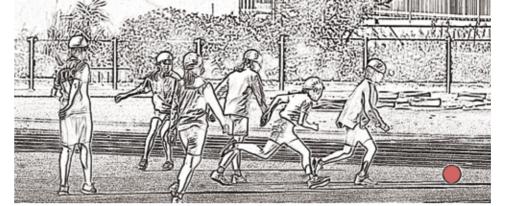
H先生は、決して叱ることなく子供達を 導く、この若い女の先生に憧れたことが容 易に想像できます。そして、子供達を包み 込む大きな包容力と、多くを語らなくても 理解し合える信頼関係は、H 先生にとって 大切なこととの中で僕たち生徒に向き合っ てくださいました。

しかし、実際は皆な H 先生にはよく叱られました。それでも、それなりに理由がある訳で、そのことに不満を持っていた子はいないと思います。H 先生にとっては、物語のように、「叱ることなく」導くという訳にはいきませんでしたが、H 先生の大きな包容力と生徒たちの先生への信頼感は、有島武郎の思い描くもの以上であったと思います。

\* \* \*

#### (「一房の葡萄」有島武郎から)

「二人は今からいいお友達になればそれでいいんです。」先生はそう言って二人を向かい合わせ、握手をするよう促します。 二人の笑顔を見て、先生は僕に「昨日の葡萄はおいしかったの。」と問います。



#### 大理石のような白い美しい手

先生は再び、部屋の窓から手を伸ばし葡萄のひと房をもぎ取って、真ん中から二つに切り分け、僕とジムに分けます。「真白い手の平に紫色の葡萄の粒が重って乗っていたその美しさを僕は今でもはっきりと思い出すことが出来ます。」

\* \* \*

子供同士、一つ屋根の下で同じ時間を過ごす学校生活。コミュニティとしての最初の経験が、小学校での時間かもしれません。その集団での小さな出来事がきっかけで、その後の関係性まで大きな変化を生じてしまうことは珍しくありません。このことは、子供の社会だけでなく、大人の社会(地域

や職場)でも起こりうるものです。

その場から離れてしまう。これも一つの解決法ですが、小学校の時のH先生のように、大きく包み込む愛情の中にその集団が包摂されるような関係/いわゆる社会的包摂の関係の大切さを経験できれば、現在の集団に関わる問題を少しでも減らせるのではないかと思っています。

\* \* \*

#### (「一房の葡萄」有島武郎から)

物語では最後に僕が述懐します。

「それにしても僕の大好きなあのいい先生 はどこに行かれたでしょう。もう二度とは遇 えないと知りながら、僕は今でもあの先生 がいたらなあと思います。秋になるといつで も葡萄の房は紫色に色づいて美しく粉をふきますけれども、それを受けた大理石のような白い美しい手はどこにも見つかりません。」

\* \* \*

小学校を卒業してから 50 年以上経ちますが、その時に作った卒業文集は今も大切にして、持っています。

その表紙は、H先生から、「スズキくんは絵を描くのが好きだから、表紙を描いてください」と言われ、描いたものです。

#### 🍠 鈴木 和貴

※社会的包摂あるいはソーシャル・インクルージョン(social inclusion)とは、社会的に弱い立場にある人々をも含め市民ひとりひとり、排除や摩擦、孤独や孤立から援護し、社会(地域社会)の一員として取り込み、支え合う考え方のこと。社会的排除の反対の概念

#### 一房の葡萄 有島武郎

底本:「赤い鳥傑作集」新潮文庫、新潮社 1955(昭和30)年6月25日発行

1974 (昭和 49) 年 9 月 10 日 29 刷改版

1984 (昭和 59) 年 10 月 10 日 44 刷

初出:「赤い鳥 第五巻第二号」

1920 (大正9) 年8月

# こどものDEN

3月末から羽田に着陸する国際便が増便 となり新しい着陸ルートが決まっている。昨 年予定航空路の説明会に出て音も体験して きました。上空2~300メートルくらい を飛ぶ天王洲大崎品川辺りは結構な音でし た。渋谷はスクランブル交差点の直上を飛 ぶそうです。上向いて歩く人も出てきてぶ つかりそうです。大人目線は高いので、こ どもとぶつかりそうですね。豊島区では不 燃化特区の椎名町駅と東長崎駅の間を飛 ぶ。900メートルくらいだったようです。 このくらいだとおそらく可聴音よりビル面な どによる反射波の共振による振動が気になる (位置出しシミュレーション不可能) ことと 思います。(耳に聞こえない音も振動ですの で反射でぶつかるところで増幅するそうで す。伊丹空港の事例では、こどもの鼻血が 急に出てくるので、はじめは病気かと思わ れていた)が問題になったりしました。す でに経済にのみもとづく封建社会の時代で ないことは明らかですが、どうもこの国すぐ

に会社や細かい組織もすぐそうなりたがる ようで全く困ったものです。フランスなんか ではどうなのでしょうか。

こうしたことですぐに影響を受けるのは

大人よりこどもだろう。先の振動の鼻血もそ

うだが、大人にとっては想定外な事態が起 こったりするのが、こども故のこと。インテ リアなどで、大人たちはすぐに無駄な空間 として収納などにしてしまうようなところが、 こどもには扉を壊して遊び場で使われたり もする。まあ自分がこどもの時を思い出せ ば、誰でも狭いところに潜り込んで遊んだ 経験があることと思う。今考えるとどうも危 険なことをしでかしていたことも思い出され る。ところで、本稿タイトルにDENとつけ たわけだが、辞書によると、DENとは、巣、 ほら穴を意味する英語「DEN」からきた言 葉で、書斎や趣味を楽しむための部屋とい う意味で使われる。特に広さや形の基準は なく、隠れ家的な用途を持つ部屋。となっ ている。こどもは自分が占有できるような狭

いところを好むのだと思う。先日関空から 保釈中の人が知らないうちにレバノンに行ってしまった。

てのことでテレビを見ていたら、こども遊びに注意ということで、ゴーン遊びというのが紹介されていた。楽器ケースのような狭いところに入ったりしないようにということのようだ。これなどは大人が、あえてこどものような大人にとっては想定外な手段を使って国外に逃げ出したということだろう。

小中学校や保育園幼稚園の設計を担当していたころを思い出すと、現場調査に行くとこどもがまとわりついてくるので、わずらわしさを感じたことが多かった、今考えると、どうしたいかを子供に聞いてもよかったようにも思うが、こうした仕事の要望はほとんど大人の要望として出されたものがほとんどなのだ。その意味からすると、特に公的な施設だと、こどものDENは設計者の能力にゆだねられているように思う。こどもの空



間としては(児童)公園などもこどものDENが配慮されていいところだと思う。近年はこうした施設の設計に市民ワークショップが良く使われるようだ。多くの人の意見をくみ上げる手法として設計者の仕事の領域にこうした活動も増えてきている。あまり実例を聞いたことがないが、こうした設計手法

(ワークショップ) にこどものDENの創出 のために、こどもだけを集めて開くワークショップがあってもいいようにも思う。ハード を取り扱う設計者より、こうしたことには、マイノリティーの扱いに手慣れた専門職の 養成も望まれる。

こどものDENが、こどもたちの施設のために(大人だけのためにではなく)、きめ細かくこどもに添える内容になるように、建築家たちは自らの職制のイノベーションと、施主教育に、努力しなければならない時代ではないか。

❷ 亀井 天元

# 環境と情操教育

●自分自身の育った環境がどのようなもので あったか記憶をたどると・良かった事・悪かっ た事・うれしかった事・悲しかった事などある。 日常茶飯事のことがなかなか思い出せない。 嫌なことはトラウマなのか、思い出したくな いことは記憶から遠ざけたいのであろう。

親世代は孟母三遷。情操教育としての環 境・音楽・図画・道徳・哲学・経験であろう。 学校教育・家庭教育・まちの教育環境はど のようなものだったか。三つ子の魂百まで。 怒られたこと・ほめられたこと・美味しかっ たこと・嫌いなものは経験によるのでしょう。 子供の空間とその環境は、ホームであり、自 然環境であり、教師・友達・先輩・仲間に

育てられるのだと思いま す。教材としての本やPC、 スマホ・タブレットがあり、 そして生まれ育った地域 やその地の歴史、精神性 は哲学・宗教が、その空 間でありましょう。



1954 卒園アルバムより

■ 戦後の下落合・焼野原の道を、リヤカー に布団を敷き、盲腸腹膜炎で苦しむ母を載 せて父が曳き、3歳の自分は後ろのパイプを 押すのでもなく引っ張られ (米軍が爆弾を落 とさなかった) 入院する聖母病院までのマチ カドの様子を思い出す。「おかぁちゃんが死ん」 じゃう」とベソをかきながら歩いた記憶です。

父の転勤で九州福岡県福岡市の郊外・赤 松林、池の水面に蛇が泳ぐ姿を発見したり、 松茸狩りをしてお腹いっぱい食べ、美味し さを学んだ野外の遊び。福岡市では朝鮮戦 争の灯火管制もありました。博多須崎町ル ーテル教会の替美歌の調べ、そして牧師園 長先生に南博幼稚園の主屋教会堂の鐘楼

> に昇らせていただいたことは、 (後年建築の仕事をするよう になってW.M.ヴォーリズの 設計であったことに気がつき ました。) 子供にとっては一大 イベントだったと思います。

豊島区立仰高小学校三年

の時に校庭で放課後、野球をしていて六年 牛に衝突して足を骨折し入院した病室から 眺めた明治通りを、自衛隊の戦車が隊列を 組んで進んで行く様子。このような事々が、 断片的に脳裏に焼き付いております。

- 哲学的な思いは、宇宙の中の一つの星 に住む一個の人間。大学に入り夏山のス キー登山・冬の合宿・自然の中で、空気の きれいな山では、人工衛星も見ることが出 来ること。夕映えの美しさ自然の雄大さを 知ることが出来たわけで、夕陽に照らされ る山々と月を眺めた時です。〔2年後にアー ムストロング船長が月面着陸しました。〕
- ゴキブリもネズミもいない・ツルピカの 家に住み、何を調べるのにもスマホの時代。 A I・ゲーム・仮想空間。これからの時代 は人工環境の中で生きてゆくのであろうか。 子供の空間・環境は、インターネット情報で・ 想像力が膨らみ・豊かになってゆくのであ ろうか。子供が飛跳ねてよろこべる空間とは、 どのようなモノでしょう。 ₩秋山 信行

### 城北地域会の活動紹介

#### まち歩き 北区 「谷田川を歩く」

2019 7.20

田端駅南口から旧谷田川流路を渡り、駒 込駅を経て染井霊園にある旧谷田川の水源 地旧長池跡への3時間に亘る行程でした。

切絵図<巣鴨染井王子辺図>、江戸名所 図会(抜粋)を携え、田端駅南□を出発し、 ケヴィン・リンチの5つのカテゴリ〈Path(通 路) / edge (境界線) / District (地域: あ

る特徴をもつまと まりのある地域

/ Node (結節点) / Landmark (目印)〉 ViewPoint (眺望点)を参照しながら、江戸 後期の景観に思いをはせ、また、周辺の小中 学校校歌に歌われたフレーズから地域景観の キーワードになっている「ふじ、つくば、さくら」 などの景観を探し、現代における地域の景観 の喪失と承継を確認することができました。

行程の途中、旧田端大橋に関連して 「十条跨線橋を活かす会」のA氏には資

料持参でお話を頂きました。また、東京駅 の設計で知られる辰野葛西事務所の旧葛西 萬治邸付近では、T氏から戦後の様子を伺い ました。さらに、染井の「門と蔵のある広場」 では、偶然お会いした「駒込地域まちづくり 協議会」のH氏に染井のお話を頂戴しました。 ●大沼 敏夫 ありがとうございました。

#### まち歩き

#### 「谷端川をたどる(その二)」

かつて豊島区西北部から区内をめぐって いた谷端川は、千川上水の余水を加えて豊 島区内を蛇行して流れ、文京区へつながり 小石川となります。北池袋駅から、池袋本 町小学校を訪ね、氷川神社その神社下の池 袋東貝塚を見物し(縄文後期)四千年前の 人々の営みを思い、下板橋駅の暗渠に沿い 歩きはじめました。JR板橋駅を過ぎ中山 道に並行する上段旧千川上水の流れに沿い、

下段川筋を歩き鎌倉橋まで(鎌倉街道が交 差する明治通り)辿りました。第三の谷端川

に相当する千川増強 下水道幹線の立坑シ ールド工法の現場に 寄り、明治期に東京巣 鴨の真宗大谷大学開 学の碑がある宮仲公 園を訪れ、一停留所

都電に乘車、大塚の天祖神社に参り、川沿い の豊島区最終点の大塚三業地を訪ねました。

#### 「わが街ひすとりい」2019年

豊島区役所が編纂する区史「わが街ひす

とりいし目白(現地ロケ編) と巣鴨(現地ロケ編・インタ ビュー編)にて、城北地域会 のメンバーも登場。昭和から 平成への変遷を語る動画配 信・豊島区の平成史です。 としまひすとりいの URL 区史

編さんサイトに入り【わが街ひすとり、目白編・ 巣鴨編】ご覧ください。 ∥ 秋山 信行



#### 11.30 まち歩き 「大学の街江古田の大学を見る」

練馬区江古田駅周辺では、27年続いた密 集住宅市街地整備促進事業が終了し、西武 池袋線南北の地区計画も、最近都市計画決 定されました。まちづくり話題の多いこのエリ アですが、今回のテーマはもう一つの特徴魅 力である「大学の街」江古田です。古くから ある武蔵大学、武蔵野音楽大学、日本大学 芸術学部の3大学をまちづくりやキャンパス 計画の観点から視察しつつ道中、昭和レトロ

の面影で界隈性、回游性ある商店街等も改 めて感じようという企画でした。最初に訪れ た武蔵大学は緑豊かなキャンパスに魅力的 な新旧の校舎が点在しています。11月末美し い紅葉に出会う幸運で、開かれたビオトープ や、システム建築、興味深いディテールデザ イン等に接し議論が広がりました。芸術系の 二つの大学は近年キャンパスを一新し新たな 芸術教育の拠点となっています。武蔵野音楽 大学では中庭型サンクンガーデンを中心に沿 道側は街並みスケールになじませ、日大芸術



学部では広場・アートギャラリー等で地域社 会を引き込むなど、まちづくりの視点で地域 と共生する大学の姿を見ることができました。 さらに設計者で当地域会員南知之氏の解説 により、練馬区立豊玉第二中学校で最近の 公立学校の特徴や魅力も視察できました (P11) 参照)。まちと建築を総合的に視察できた有意 義なまち歩きでした。 ●久間 常生

#### 空間ワークショップ 「区立加賀小学校」

3年目となるこの学校での開催も、8時 頃から小雨が降り出し、初めての体育館で の開催となりました。体育館の中央に広場 をみたてたスペースを設け、その周囲に10 棟のイエを創りました。

1.18

創り始めて90分、思い思いの作品がで きました。完成後の発表会では、そこにた

どり着くまでの苦労が伝わります。4年牛の 時から楽しみにしていた今日の日も、校庭 とは勝手も違い、思いどおりにならなかっ たことも多かったかもしれません。

それでも、子供達のチャレンジするココ 口、確かな自信はなくても満足できなけれ ば変えようとする意識は尊いと思います。

創り始めた時の寒さは子供達の熱気です っかり忘れていましたが、発表の時、ふと 外を見れば小雨は雪になり校庭は真っ白に 鈴木 和貴 なっていました。

#### 編集後記

わたし自身、いままでにこどもの空間の 設計に携わってきましたが、KNITの学 校の設計に関与したことが今回の特集の テーマ「こどもの空間」を選んだきっかけ でした。地域とこどもの関係を考えてみた いと会員のみなさんに問いかけたところ、 難しいかな? どうしようかな? などの反応 もありましたが、みなさんの賛同を頂いて テーマが決まりました。この小冊子には私 小説あり、活動レポートあり、風景論あり、 環境論ありと、こどもをめぐるさまざまな 言説があふれています。答をしっかりと持 ってきてくださったなあと、みなさんに感 謝しております。

そもそもわたしたち大人がこどもたちに 提供できるものとは一体なんなのだろうと、 思います。こどものいないわたしにとって は、こどもの空間を考えるのは、ひたすら 自分のこども時代から発想することが大き な部分を占めています。もちろんさまざま な空間、建物、環境を自分のことだけでな く、今のこどもたちのことを思い、提供して いくのですが、そこに本当のリアリティがあ るのかというのが疑問でもありました。

これからもこどもの空間づくり、そして それを支えるまちづくりに地域会としても 尽力していきたいと思います。

🍠 南 知之

KNIT#6

発行: JIA城北地域会

公益社団法人 日本建築家協会(JIA)

関東甲信越支部

発行日: 2020年3月31日

編集:南知之 久間常生 鈴木和貴 信原利行

レイアウト:要久美子

不許複製・禁無断転載

http://www.jia-kanto.org/johoku/index.html



KNIT (ニット) とは北区 (Kita) 練馬区 (Nerima) 板橋区 (Itabashi) 豊島区 (Tosima) の 城北4区の頭文字で、「編む・結ぶ」との意味から、地域の人・歴史・文化が織りなす 美しいまちを目指した城北地域会の活動を表しています。

